普及する無痛分娩

學びたい婦人への醫學教育

宮川組合長欧亜旅行記（20）

北京市に婦幼保健実験院というところがある。

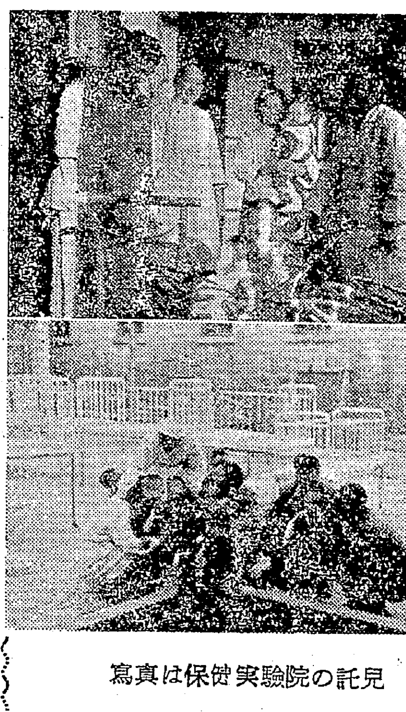
この問題に関係のある全医療の井上氏、全破波の徳永氏、総評の婦人部長井上氏、それに私の四名で見学した。

この実験院は大体子供に対する保健、婦女保健、実験の三つに別れ、大衆の中に入つて活動したり、訪問等の活動、予防と治療は結合しているので、予防教育に努力している。宣伝教育の方法としては小型展覧会を行つたり、家庭訪問をしたり或いは婦人会と協力して訓練班を編成し、その訓練に当つたりしている。

その内容は季節によつて違うが、健康診断は三才以下、年に二回、三才以上七才まで一回行われ、これには学校、幼稚園、託児所を除いている。

現在のところまだ医者が不足しているので、完全とはいかないが、栄養指導、予防接種等も実施されていて、伝染病などの場合も、これを受持つて指導しているということである。

午前が大体治療に当り、午後は健康診問になつている。ここには入院も出来る施設があつてベットが三十五あり、入院出来る入院条件は初産のもの、四人目以上の出産をするもの、難産の場合などである。



写真は保健実験院の託児所の子供たちと保母さん

特にわれ〳〵の注目をひいたものは、ここで〃無痛分娩〃の運動を盛んにしていることである。

無痛分娩というのはどういうことかというと、すでに日本で云われている正常分娩のことでまず中国の封建的な殻を打ち破つて妊婦に対し、正しい認識と適当な運動、更に出産の際に於ける医学的な知識などを植付け、安心して分娩出来るように、日常活動の中でこれらのことを教育しているということである。従前中国に於ては非常に封建的な方法で家庭にあつて分娩していたのが現在では、この近代的な科学的方法によつて、分娩出来るようになつたということであつた。この実験所は北京市に一つあつて、この下に各区毎に保健所がありそこに保健婦がいる。一級、二級の保健所には医師が常駐していてそこから各受持区域を毎日巡回し、或いは妊婦を集めて絶えず保健衛生知識を徹底させているようである。その外に実験託児所というものがあつて、子供の発育状況、栄養、その他を完全に実験するために、生後二、三ケ月から満三才未満の幼児を預つて各人の具体的な実験を行つているが、現在四十名程預けられていて、みんなマル〳〵と肥つていた。

このようにして、中国の婦人に対する医学教育が活発に、しかも熱心になされているのを見てわれ〳〵は非常に感心した。

このような運動を通じて家庭生活に対する凡ゆる知識をさずけるということについて、やはり日本でも大いに参考にしなければならない点ではなかろうかと感じた。

清里村分村編入すゝむ

財産処分、編入区域を議決

荒尾市議会本会議

六月二十六日十八時二十分荒尾市議会は本会議を再開し、編入区域並びに財産処分の二件を審議決定し、清里村分村編入を実質的に決定したが、市議会の模様や編入賛否投票時の実態等、三鉱労組福川政治局員（荒尾市情報担当）より報告があつた。

清里村編入問題は既報の通り八ケ月にわたり紛糾に紛糾を重ねて来たが

一、清里村編入に伴う区域に関する件

二、同財産処分に関する件

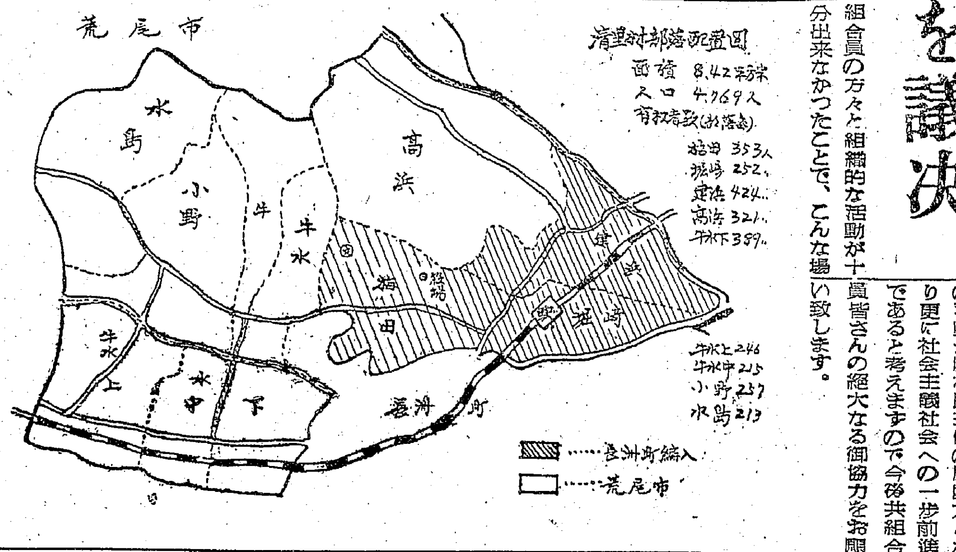
以上二件の審議が実質的に清里村分村編入を荒尾市として認めるかどうかという最終段階に来たわけであり、傍聴席には編入受入陳情のため、清里村民百数十名が馳けつけ立すいの余地もなく、緊迫した中に議案の説明に続き審議が行われ、三鉱労組出身議員三名から原案賛成の意見を述べ、要望として財産処分の中の学校の問題は清里村荒尾編入部落の児童の将来を考え、来年三月までは共有その後は双方協議の上決定するとあるが三月以降は荒尾市に属することに努力するよう。又現在まで村民の対立感情が極端に悪化したことは我々がもつとも憂慮しているところであり、基本的人権尊重の立場からも一日も早く平和であつた過去の部落に還るよう荒尾市議会の名をもつて全部落民に呼びかけようという要望を付し満場一致原案を可決、可決と同時に傍聴席より起る割れるような拍手の中に実質的な清里分村荒尾編入は決定した。

この問題を通じ労農提携はまず農村の封建遺制の打破であり　農民に勇気を与えることが農村民主化への先決問題であると考えさせられ、そのためには組織労働者の積極的な働きかけが必要であり又農民もそれを待つていることを信ずる。

三鉱労組組合員の要望もあつて民主的にかい決するようニユース・カー宣伝を行つたが、ある所では数十名の部落民がニユース・カーを取まき棒をふりバ声をあびせ車体をケリ、暴力的行為をしめし、自分達に有利に投票を行おうとする意図がうかがわれたが、我々民主的な組織労働者からみればその非常識と非民主的な行為には唯あきれると共に哀れに感ずる程であつた。

一方暴力的行為と威圧に耐え平和的かい決を心から願う部落の人々は正しさを諄々と説いているニユース・カーに手をふり或いは感謝の眼ざしを送り好意を示したが、その気持ちはたしかに一万六千の組織労働者への感謝の気持ちであつたろうと思われた。今後はこの心と心のつながりをあらゆる面で結び合せることが本当の農村との提携を進めることであると考える。

この問題で組合員の方々に非常に頑張つていただいたことを感謝しているが、我々政治局員として反省しなければならないのは、研究不足と連絡不十分の為部落在住の組合員の方々と組織的な活動が十分出来なかつたことで、こんな場合オルグ的役割を果していただければまだ〳〵成果は挙がると考えられるが、その為には早急な地域分会の結成が必要であるし、分会の活動が農村民主化の原動力となり更に社会主義社会への一歩前進であると考えますので今後共組合員皆さんの絶大なる御協力をお願い致します。



繰込場の花

宮浦鉱の繰込場にはここ二年来毎週欠かさず春夏秋冬を通じて新しい花が活けられ入坑する人、昇坑した人たちの心に優しく美しい印象を与えている。これは同支部の主婦会の人たちが坑内で激しい労働に携る人たちへのせめてものと美しくも又女らしい奉仕である。二年前各分会で一週間毎に受け持つたこの奉仕はこの種のよくありがちな三日坊主で終るものではなかろうかとの一部の好奇の目を見事に覆えして以来今日まで毎週雨風に負けずに続けられて来た。汗にまみれ炭塵をかぶり坑内から上つてこの花が目に映るときはまさに職場のオアシスである。

【写真は繰込場に活けられた花】

主婦会記念バレー

全員加盟の統一で

三鉱労組改選前極く一部ではあるが主婦会未加入者があつたが、前分会長田端重蔵氏外地域役員の努力が実を結び全員加入をみていたがその統一を記念する為、又三川支部主婦会結成一周年バレー大会の選手詮衡を兼ね十五班を五班に分けての班対抗のバレー大会が二十六日九時から催された。

青葉目に泌む候とはいえ連日の降雨で気づかはれていた天候も午前八時頃からはカラリと晴れ本格的な夏の日射しが灼けつくようであつた。八時三十分より開会式が行われ主婦会分会長宮崎フヂ子さん副分会長後藤ヨシ子さんの挨拶があり、体育部長橋本満治氏の審判上の注意が行はれ、又前分会長田端重蔵氏、現宮崎地域分会長のメッセージが贈られ、後藤総務部長の挨拶で九時から愈々試合が開始された。この日は特に十数名の地域役員も自主的に行事運営に終始協力西町全員の麗辞の的であつた輝しい色に日灼けした顔が異口同音こん後益々固い主婦会との協力、又悪法粉砕の熾烈な闘争にも総力を結集して最後まで戦い抜こうと誓い合つた。

応援の大声援の中に終日真剣なプレーを展開し終了後成績発表、続いて賞品授与が行はれ　午後三時意義ある本大会の幕を閉じた。

成績次の通り（十五班中三ケ班を一班とし五班に分けて試合）

優勝チーム	十三、十四、十五班
第二位	十、十一、十二班
第三位	七、八、九班
第四位	四、五、六班
第五位	一、二、三班

（万田発）　宮崎猛敏報

清里村の所有財産処分案

第一　中学校、小学校、保育所の敷地建物（附属建物、工作物、教保育資材一切を含む）は荒尾市、長洲町双方の共有とする。但し持分は清里村の分割区域、人口、保育児、児童、生徒数の割合による。

附帯条件

一、荒尾市、長洲町は共有物を中心として市町の一部事務組合を組織従来の用途に順い教保育の管理をなす。

二、組合議会議員の数は双方同数とする。

三、組合費は教保育児童及び生徒数の割合により双方の負担とする。

四、荒尾市、長洲町は保育所の管理は教育委員会並びに学校組合に委任するものとする。

五　組合は共有の分割と共にかい散する。

共有は昭和三十一年三月末日までとし、持分の割分は不可分物としその帰属は双方協議の上決定する。

第二　役場敷地並びに建物、住宅建物は長洲町に移譲する、但し器材は双方協議の上分割を決定する。

第三　村有地は長洲町に移譲する。

第四　村有山林及び基本財産（現金及び有価証券）は荒尾市に移譲する。

第五　消防器材及び諸物品は現地保管の通り分割する。

第六　起債債務の年次負担は第一号三の例により組合において処理し、共有分割、組合解散の際の残額は第一号本文の例による。

※荒尾市編入

小野、高浜、水島、牛水上、牛水中、牛水下、計六部落

戸数	五五三
人口	三、一一六

※長洲町合併

堀崎、建浜、梅田、計三部落

戸数	三四一
人口	一、八〇八

揃つて集團登校

父兄・學校も大喜び

交通事故が日を追つて発生している時、小中学生の登校、下校は学校に子供を送る母親たちの心配のひとつとなつているが、四山支部社宅の五分会の子供たちは父母に心配をかけず事故防止のため最近集団登校を行つている。

一日この登校状況を見に足を向けた。

六月二十二日午前六時四十分、今日は小雨が降つている。七時になりポツポツ児童の顔を見受けた。附近の家に「学校に行こう」という元気の良い声が聞こえる。七時十分、五十名余りが集合、これがどうして集つて学校へ行くのかと質問をすれば

六年生A　四山社宅を出ると自動車、三輪車、自転車などが多く一年二年生は登校、下校のとき非常に危険です。

一年生B　みんな集つていつた方が良いよ。

七時二十分、百数名が集つた。各班毎の人員調査を上級生がやつて報告している。いよいよ登校だ。河島PTA係がついていろいろ注意している。道中の注意、帰りに傘を忘れないように等こまごまとした所まで話している。これが終つて登校が始まつた。

四山社宅を出ると全く驚く。出勤時間のラッシュで自転車はひんぱんに通行し右側左側通行どころか道路一杯になり、右側通行で登校している生徒は右側ギリギリ一杯小さくなつて登校している。

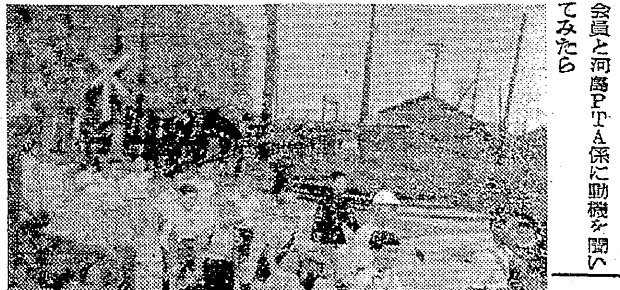
この集団登校に対して龍下地域分会員と河島PTA係に動機を聞いてみたら

龍下氏　生徒が五分会には百五十名おり、集団登校するようになつて皆が仲良くなり近所の生徒が集つて勉強するようになつたので親たちも非常に喜んでいる

河島氏　登校が通勤時間と一緒になるので危険で集団登校を思い立ち生徒と話合つたら全員賛成したので実行した。

これで欠席、遅刻が少くなつたと学校でも感謝しており喜びの連絡を受けた。今後も続けて行きたい。

（四山発）



危険な踏切も上級生の注意で横断

職場討議で保安をかちとろう！

週間行事で終るな

七月一日から全国保安週間

地上を歩いていても怪我をし、思わぬ交通災害をうける。まして今日の複雑な工場の中には、一応安全な職場のある筈がなく、坑内に至つては絶対安全な箇所は一ケ所もあり得ない。

現行保安諸法規は周知の通り、決して我々に満足なものでなく、欠陥だらけのもので、その証拠には法制定数年になるが、未だに怪我殉職者がたえず、災害が起る度に安全協議会、保安委員会等では、その原因探究、責任の追及その対策には必ず紛争を起している状態である。なおこれは鉱業権者がこんな法規でも完全に守つて居らないからで、生産会議においてすらその度毎に保安の確保が問題になつている。従つて保安の確保は刻々と移り変り行く現場の実態に即応するものでなければならず、切羽、道中等の環境は勿論、作業方法にしても決して能率本位のものではなく、保安を第一義としたものでなければならない。これが解決の為には本年度活動方針に示す如く、保安は会社の教育だけを鵜のみにするものでなく、一昨年の企画以来すでに実施している。一齊一時間休憩の厳守、発破十五分間の退避の厳守等の外、現場で起る種々の問題については充分職場で討議し、執行部と連絡の上速やかにこれを改善させる為の強力な、職場要求を行わなければならない。また法規違反をあえて指示する者があれば、これに対しては容赦なく徹底的にその責任を追求し、断固とした処置をなさしめる。而して保安は天下り法規のみによるものでなく、現場の体験から生れる要求の積上げでなければならない、と同時にこの為の闘争は決してゆるがせにしてはならない。然し以上は日常闘争として行うべきであつて、今回の安全週間に当つては冒頭述べたような意義を完うさせる為、特に左記の点については、執行部と充分連絡をとり、協力のもとに保安諸般の現場処理を強力に遂行しなければならない。

一、違反箇所を発見した場合、又は違反作業を指示された場合は直ちに現場安全委員、常任安全委員、保安委員或いは委員、執行部に連絡する事。なお違反作業はこれを拒否する事。

一、現場環境は勿論、坑道、材料置場、休憩所等に危険又は不健全な箇所があれば、現場で充分話合つて速やかにこれを改善させる強力な職場要求を行う。

一、法規等に関する疑義、又は法規と現場との関係に就ての疑義等、就ては現場でこれを充分討議集約し遠慮なく執行部、保安委員等に問合せ疑義の点は明確にする事。

一、現場に於て負傷者が出た場合（大小を問わず）直ちに保安委員、執行部に連絡を行い、附近の組合員は全員集合し、その場で負傷の原因と事后対策につき検討する事。

一、新たな附帯作業は執行部と連絡をとり、その指示により行う事。

最后に簡略に結論を述べると、要は従来迄の「保安」という言葉をもう一歩前進させて、名実共に「生きたもの」としたい。それがためには、我々は凡ゆる日常の職場における出来事の中から徹底的な討論、追及をなしてより良き対策を得たいものと考えているが、そのためには現場の皆さんと家族の方々の熱心な御協力を必要とすることはいうまでもない。

多すぎる母の悩み

大會に中小鉱の実態を

前号に掲載された「日本母親大会」の状況に引続き「子供を守る分科会」に出席した元島さんはこの日論議された教育、教科書、環境の問題や、動議として提出された中小炭鉱救済や石炭合理化法案反対を決議した二日目の会場模様を前号に引続き当紙に寄せられた。

政府は熱意がない

大会二日目は各分科会に別れ開催、私は「子供を守る分科会」を選びました。会場は下谷公会堂司会者は日本子供を守る会のはに原さん。

最初に教育の問題が取上げられまず六人の母親である安達さんが「二部授業廃止」の訴えをなし「午後の部は子供が学校に行きたがらぬ、このため子供に腕力を振うお母さんもある。午前中の生徒は授業の終らぬ内に午後の生徒が窓へ押しかけるので落付いて勉強が出来ない」つづいて福岡のお母さんを始め各方面のお母さん方から同じ意見が出された。結局国家の教育予算が非常に少い。軍備に廻わされるそのシワ寄せは教育費用の大巾削減を招いている。私達母親は教育予算の出された時深い関心を持つて増額に力を合せなければならない。なお教科書の問題についても活発な意見が出され　母親のナヤミは全国共通のものであるということがしみじみ判りました。子供の多い家庭では新学期になると教科書のために主食代に差支える。折角求めた本も後の子弟に譲れなく、転校すれば全然使えないなど切実な訴えが出された。

戸畑市の先生から「北九州五市では教育委員会と話合つて五都市共通のものを取上げている」との参考意見も出された。たまたま羽仁先生がお見えになり「教科書の統一ではよく考えてほしい。目前のことにとらわれて大局を誤らぬように、十年も同じ版を使う国定教科書は安く便利だが、往年の軍国主義的教育に統一されるおそれがあり民主的教育が破壊される。教科書制定の審議員などにお母さんがなつてよく見守ることだ」と話があり私達もその主旨には賛同し、結局根本問題は政府の教育に対する熱意が不足として、母親大会の決議として予算増額の要求を話合つた。

環境の問題として心身ともに発育盛りの子供の耳と目から入る情操教育について真剣に話合いました。紙芝居　書物　映画のことやみなりの悪い子にも平等にして下さいと訴える自由労組のお母さんの訴えなど、世の中の凡ゆる面でのお母さん達のナヤミや悲しみが如何に多く深刻かが痛切に感じられ、この暗い雲を少しでも母の力で押し戻くことは出来ないものかをしみじみ大会二日目に感じさせられた。

悪法に反對決議

午後私は炭鉱主婦の立場から、現在の中小炭坑の窮状を訴え「今叫ばれている人身売買も根本は深く生活に根ざしている。可愛い子を目をつぶつて渡したお母さんも眠れない日が続いたことと思う。子供の人権も貞操も今の中小炭鉱の人たちの現実の前には水泡のようなものです」と結ぶと、みんな涙を流してうなづいて下さつた。早速「ヤマの子たちへ」と三千八百五円が集められ「物資のカンパだけでは駄目です、政府に中小炭鉱を救えと抗議しよう」と動議が出され取上げられた。私は上京する時是非中小鉱の実態を訴えたいと考えていましたが、会場での訴えを聞いていると余りに世の中には悲惨な人が多いということが判りました。

中小鉱の動議を出して頂いたので早速「今国会に出されている石炭合理化法案に絶対反対の決議を大会の名でお願いしたい」と文書で提案理由を添えて申入れ取上げて頂いました。

この問題では翌三日の全体動議の中でも相田地区のお母さんから訴えられ、日教組の御協力も願つて、母親大会の署名で衆参両議長労相、通産相に面会し請願書を提出しました。

この間私たちの阿具根、山本、吉田各参議や多賀谷、青野代議士に非常に御指導を頂きました。

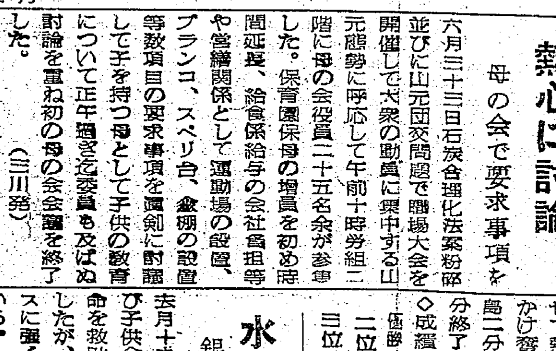
投書

各支部外來地域分会長さんへ

外来に居住する組合員の人達の為に又各支部の地域分会の連絡の為に是非おねがい致す者ですが、それは六月十八日私の分会で班長会議を開催、報告事項より議事が終り、地域の皆さんより要望をとりました。十平地区並びに右京地区の班さんより要望として鉱害問題についで発言があり、私としては三川外来の分会長に相談致し、この問題はとり上げましようと申しました。皆さんに私から相談があります。それは三川支部だけでなく、各支部の外来に居住する人のなかにもあると思いますので、これは各支部の地域分会長さんに自分の地域の鉱害地の調査をしてもらつて外来の鉱害対策に乗り出したいと思いますので何卒よろしくお願い致します。外来地域の密接なる連絡等により、地域団結が一歩々々前進していくものと確信致しますので各支部地域分会長さんの御協力をお願いいたします。

三川外四分会長

松崎勝次郎



養老院を慰問

四山主婦分会福二会で

家庭愛に恵まれない不幸な人々を慰めようと四山主婦会福二分会では坂井分会長ら二十名が去る六月二十三日大牟田養老院で老の身を養う淋しい老人たちの慰問を行い自慢の踊りを披露、持参したお菓子などで心暖い慰問の一日を過した。最近養老院には閑散期に入つ外部からの慰問が二ケ月近くなかつたそうで非常に淋しがつておられ、この日四山主婦会の人たちの暖い慰問で一ぺんに院内が若やいだ。老人たちも今日は本当に家庭の中に入つたようですと老の顔をほころばせて喜んでいた。

一時間の懇談会を開いた後慰問演芸を行つたのだが、この福二分会では年間行事として六月には養老院などの公共施設を慰問することになつているそうで、今後も続けて行くそうである。

熱心に討論

母の会で要求事項を

六月二十三日石炭合理化法案粉砕並びに山元団交問題で職場大会を開催して大衆の動員に集中する山元態勢に呼応して午前十時労組二階に母の会役員二十五名余が参集した。保育園保母の増員を初め時間延長、給食係給与の会社負担等や営繕関係として運動場の設置、ブランコ、スベリ台、鉄棚の設置等数項目の要求事項を真剣に討議して子を持つ母として子供の教育について正午過ぎ迄委員も及ばぬ討論を重ね初の母の会会議を終了した。（三川発）

水魔は誘う

銀水社宅で人命救助

去月十九日、銀水社宅地域分会及び子供会では勇敢と機転で尊い人命を救助した三人の小学生を表彰したが、これから向う水のシーズンに強く子供たちの注意を促している。

その一　去る十二日午前十時半頃七夕鶴天堀跡で魚釣り中誤つて落込んだ同地区塩川富士夫君（十一才）を高崎鶴八氏（本所）の長男賞彦君（八才）が釣竿を差出して無事救助した。

その二　同日午後三時頃銀水社宅北側の堤で魚釣り中に転落した木下昌行君（八才）を浮島美喜夫　中村森秀両氏（製作）の子息たち隆夫君（八才）恵次君（八才）が着衣のまゝ飛び込んで救助したもの。

（銀水社宅　寛）

バレーで熱戦

四山主婦會で開催

四山支部主婦会では主婦会バレーにそなえて数週間前から各分会で練習に励んでいたが、六月二十六日連日の雨もカラリと晴れた全くのスポーツ日和を迎えて、午前九時半から主婦会バレー大会を開いた。参加十三チームという盛況さで各分会とも日頃鍛えた腕の冴えを見せて熱戦につぐ熱戦の追い打ちをかけ奮闘したが、最後の優勝は大島二分会の手になり午後三時三十分終了した。

◇成績

優勝	大島二分会
二位	福二分会
三位	福一分会

闘いの先頭に

前進同盟の集い

一昨年百十三日の闘いで最後まで拒否した人達の会である前進同盟の会員は迫り来る合理化反対闘争を前にして、二十六日三川集会所で臨時総会を持つた。

古賀徳継氏（本部書記次長）が当面の情勢を説明して「私達は今後の闘いの先頭に立つて闘おう」と訴え蒲池清一会長（本部労働部長）比田末平氏よりの説明及び今後の運営を計り「今日の段階に於て、この会は強力に存続する」と満場一致で確認し次期会長に稲葉東生、会計に藤木與、会報編集に北村晴、藤末克己、今村四郎の三氏を決定した。同停年退職が三、四人あつたが、この人たちも会員として今後共々闘つて行く事になつた。最後に当時を偲んで、民族独立行動隊の歌を高らかに歌い、今後の闘いを約して解散した。

（三川発）

宮内主婦会が紡績工場見學

四山宮内主婦会ではさきの総会で「もつと視野を広め、社会勉強のためにもいろ〳〵の工場を見学したら」と分会員の間から要望が起り、このため種々の行事の合間を見出して去る二十九日荒尾紡績工場を見学した。

この日午前八時三十分集合し、紡績工場の現場を丹念に見学し、機械化された紡績現場に皆一様に驚嘆した。いろ〳〵の説明を聞き、また工場長、組合代表者との懇談会を開き、初めての社会勉強の大きな収穫を得て午前十一時三十分工場見学を終了した。

この見学を終えた主婦会の人たちが次のような感想を述べていた。

Aさん　私も以前紡績で仕事をしておりましたが、こんなに機械が発達したのに驚きました。

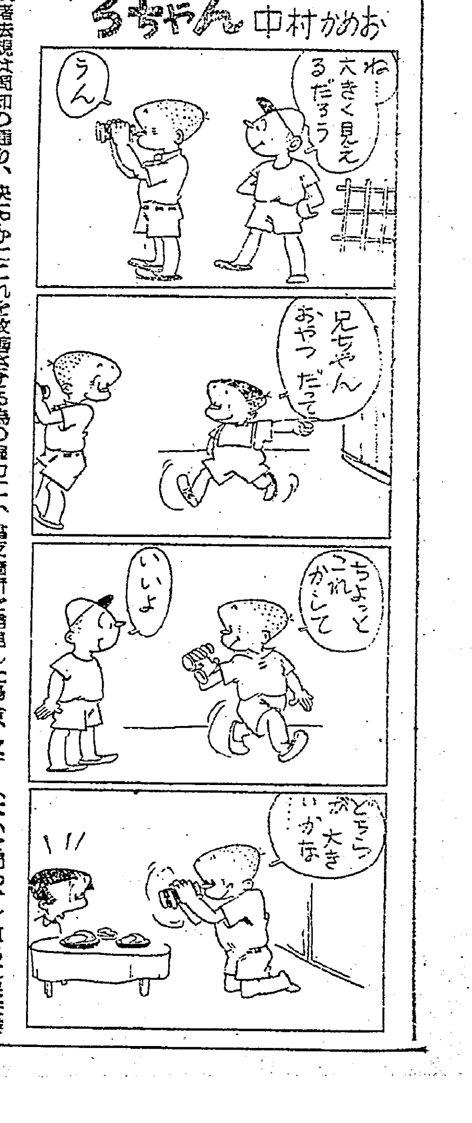
Bさん　本当に今日の見学はいろいろの面で勉強になりました、今後も暇を見出し、いろ〳〵の所を見学に行くよう、皆さんと相談して実行したいと思います

（四山発）

連載漫画 NO 23

ろちゃん

中村かめお


ね…大きく見えるだろう
うん
兄ちゃんおやつだって
ちょっとこれかしてー
いいよ
どちらが大きいかな